

自治 温故創新
考える
思いやる
やりぬく

まごころ

学校便り10月号
令和4年10月27日
西東京市立田無第三中学校

三年ぶりの大合唱コンクール

校長 東山 信彦

3年ぶりの合唱コンクールが、今月21日に、文華女子高等学校講堂をお借りして行われました。コロナ感染症の状況がどう進むのか予測もできず、本校体育館での実施もやむなしとなっていたところで、文華女子高等学校よりお誘いを受け、素晴らしい発表の場を用意することができました。文華女子高等学校の皆様には、改めて感謝申し上げます。

学校から徒歩5分という地の利を生かして、当日はまず学校で声出しをしてから、各学年順に会場入りしました。期待感と緊張感がないまぜとなった開会式に続き、1年生の部からスタートです。



A組



C組

コンクール特有の独特の緊張の中でのスタートとなりましたが、1年生らしい、明るい元気な歌声をあげました。1年生は、コロナ禍の中、小学校5・6年生という小学校での充実期を歌なしで過ごしてきた世代です。

中学入学後、初ともいべきクラス合唱の練習に戸惑うことも多かったのではないのでしょうか。しかし、どのクラスも、歌を歌うことが好きなのだと感じる、明朗で大きな歌声で、課題曲「カリブ夢の旅」と、自由曲を歌い切りました。実は、「カリブ夢の旅」の作詞者平野祐香里さんと私は同級生です。学生時代そのままに、ニコニコ笑いながら1年生の歌声を聞いている平野さんの姿が目に見え、浮かびました。金賞は「マイバラード」を高らかに歌い切ったA組。銀賞は「HE IWAの鐘」のC組でした。



D組



C組

2年生の歌声には、一年間の成長を感じました。そして、来年度最上級生に向けてさらなる飛躍を確信させるものでした。昨年合唱コンクールは実施されず、1年生時の合唱を聞いていないのですが、確かにそう思えたのです。舞台上で立ち

位置も、声を掛け合って調整する姿がありました。練習の積み重ねの中でも、きっとそんなシーンがあったのではないのでしょうか。合唱の練習期間は短いものでしたが、入学以来培ってきた仲間への信頼感が伝わってくる、丁寧な歌声でした。金賞は、「僕らの奇跡」を情感豊かに歌ったD組。銀賞は「心の瞳」のC組でした。

さすがの3年生の歌声でした。課題曲「大地讃頌」は、それこそ私が中学生のころから、ずっと3年生の課題曲の定番として、歌い継がれてきたものです。簡単な曲ではないことをかつての中学生だったあらゆる世代が知っています。歌うことを止められた昨今のような状況下で、この難曲に



挑むのは並大抵のことではありません。昨年度、一昨年度中止の憂き目をみた合唱コンクール。中学校の合唱コンクールを一度も経験せず、お手本のないままに、最上級生としての矜持を示さなくてはなら

なかった三年生。さぞかし大変だっただろうと思います。しかし、さすが三年生。見事にやってのけました。四部合唱の厚みのある、そして伸びやかな歌声も素敵でしたが、指揮者をまっすぐに見て、前のめりに歌う姿にも魅了されました。三中での三年生の歩みが凝縮された、思いのこもった合唱でした。金賞は、歌う喜びが全身から伝わってきた「Oh Happy Day」を歌い踊ったB組。銀賞は「証」のA組でした。

保護者の皆様には、各学年2名までという制約のなかでしたが、431名のご参加をいただきました。交通整理や受付等、お力添えもいただきました。ありがとうございました。生徒のために奔走した、文化的行事担当教員をはじめとする教職員一同も、当日に至るまでの笑いあり涙ありの日々を経て、舞台上で一所懸命に頑張る生徒の姿を、見ることができた報われた一日となりました。大合唱コンクール、大団円でした。



○明日(10月28日)、開校60周年記念式典が行われます○



本校は、昭和36年4月1日に田無小学校の一角に、田無中学校分校として誕生し、その翌年に、東京都北多摩郡田無町立田無第三中学校として、当地に移ってきました。その年月を、人の歩みに例えるならば、還暦を迎えたこととなります。コロナ感染症対応のため、全校生徒が一堂に会しての盛大な会は実施できませんが、明日午後、当代の代表としての三年生とともに、西東京市長をはじめとする御来賓をお迎えして、ささやかながらも記念式典を行います。

全生徒に開校60周年の歩みを記録した、記念冊子と記念品を配布しますのでぜひ御覧ください。